報道関係各位

Press Release

すべての産業の新たな姿をつくる。

Laboro

オーダーメイド型 AI 開発
「カスタム AI」

株式会社 Laboro.AI

2026 年 9 月 4 日

Laboro.AI、半導体の国際業界団体「SEMI」に入会
先端モノづくり領域での取り組みを強化
― 現場に眠る暗黙知と AI 技術をつなぎ、すべての産業の知識産業化へ ―

株式会社 Laboro.AI
代表取締役 CEO 椎橋徹夫・代表取締役 COO 兼 CTO 藤原弘将

「カスタム AI 開発」を展開する株式会社 Laboro.AI（東京都中央区、代表取締役 CEO 椎橋徹夫・代表取締役 COO 藤原弘将。以下、当社）は、半導体をはじめとするエレクトロニクスの設計・製造サプライチェーンを世界的に支える業界団体 SEMI に入会したことをお知らせいたします。

Laboro

当社では、半導体産業をはじめとした先端モノづくり領域を、今後の注力領域の一つとして位置付け、これまでも半導体を含む製造業向けたカスタム AI 開発プロジェクトを多数推進してまいりました。本入会は、その取り組みをさらに強化する第一歩です。

当社が保有する、企業固有のノウハウを AI エージェントに参照・実行させるための技術基盤を強みに、熟練者の暗黙知を「モノづくりを動かす知能」へと高め、半導体産業を支える現場の設計ノウハウを産業全体で活用できる形へと標準化する試みを進めることを通して、プロセスの最適化や製品開発サイクルの短縮といった価値創出に貢献するとともに、産業のキープレイヤーとなることを目指してまいります。

背景

生成 AI の進化により、半導体領域では、設計から製造・検査に至る各工程で AI の活用が急速に進みつつあります。たとえば EDA（電子設計自動化）ツールの領域では、回路・ネットリストの理解やテストベンチ生成、シミュレーション実行、ログ解析といった設計業務を支援する AI エージェントの活用が急速に進化しています。一方、こうした汎用的なツールの活用は、業務環境の高度化による生産性の押し上げには効く一方、その恩恵は同じツールを使うすべての企業に等しく及ぶことから、それ自体が各社の競争力の差につながるわけではありません。

とりわけ日本の半導体メーカーが得意としてきたアナログ半導体をはじめとする領域においては、その判断の多くが定量化されないまま、現場の技術者が長年培ってきた「匠の知見」として蓄積されてきました。つまり、汎用ツールが高度化するほど、競争力の差が生まれる余地は汎用ツールが知り得ない各社固有の設計知へと集約されていきます。

しかし、こうした優れたノウハウを保有する多くの企業では、それらの暗黙知をデータとして成型・蓄積し、仕組みとして機能させることに大きな期待が寄せられる AI 開発ノウハウについては、自社内に十分に蓄積されているとは言えないのが実情です。この「現場のノウハウはあるが、AI 開発のノウハウがない」という状況は、進化する汎用ツールへの依存から脱却できない状況をさらに加速させるだけでなく、競争力の源泉が活かされないまま、世代交代とともにそのノウハウが失われていくリスクにもつながっていきます。

こうした背景から、半導体各社が持つ現場のノウハウを、進化する AI 技術といかに融合させ、また産業横断で活用できるように意味付け・標準化し、次世代の競争力へと転換していくかという課題は、個社にとどまらず産業に共通する課題であると当社では考えています。

当社の狙いと及び今後の取り組み

当社はこれまで、オーダーメイド型 AI「カスタム AI」の開発を通じて、企業固有のデータやノウハウをベースとした AI 開発に注力してまいりました。直近では、そこで培った開発・プロジェクトマネジメントの知見を集約した AI エージェント技術基盤の開発に着手しており、すでに一部プロジェクトでの運用を開始し、生産性向上の成果も得られているところです。

半導体領域における複数企業との取り組みもすでに推進中であり、各社固有の技術資産・ノウハウを AI エージェントが参照し、自律的に特定のタスクを実行・改善・運用するための技術基盤の研究開発を進めています。当社ではこうした取り組みを、業界標準化に向けたキープレイヤーとしての存在価値を発揮していくための活動として、より一層の注力を進めてまいります。



今後の展望

当社は、今般の SEMI への入会を起点とした取り組みを、半導体産業をはじめとした先端モノづくり領域における注力の第一歩としてだけでなく、「すべての産業の知識産業化」に向けたスタートとしても位置づけています。近年、生成 AI および AI エージェントの技術高度化を背景に、AI の存在を前提とした組織・事業・ビジネス設計による AI-Native 化に向けた取り組みが、国内企業においても必要性を帯びてきています。　当社では、上記の技術基盤開発のほか、企業内に蓄積される形式知・暗黙知を AI によって活かし、設計・開発プロセスの最適化や製品開発サイクルの短縮といった具体的な価値創出につなげる各種プロジェクトの推進を通じて、企業のバリューアップと成長に貢献してまいります。

なお、本取り組みに関する具体的な活動やソリューションについては、今後、順次発表してまいります。

参考情報

■SEMI について

SEMI は半導体を中心とするエレクトロニクス製造サプライチェーンの国際工業会で、業界の発展と技術革新を支える重要な役割を果たしています。

Ｕ Ｒ Ｌ：https://www.semi.org/jp

■株式会社 Laboro.AI 会社概要

会 社 名：株式会社 Laboro.AI（ラボロ エーアイ）
所 在 地：〒104-0061 東京都中央区銀座八丁目 11-1
代 表 者：代表取締役 CEO 椎橋徹夫
　　代表取締役 COO 兼 CTO 藤原弘将
設　　立：2016 年 4 月 1 日
事業内容：機械学習を活用したオーダーメイド型 AI『カスタム AI』の開発
　　カスタム AI 導入のためのコンサルティング
Ｕ Ｒ Ｌ：https://laboro.ai/

株式会社 Laboro.AI は、「すべての産業の新たな姿をつくる。」「テクノロジーとビジネスを、つなぐ。」をミッションに掲げ、AI による新しいビジネス施策展開によって企業成長を図る「バリューアップ型 AI テーマ」に効くオーダーメイド型 AI 開発「カスタム AI」を展開する、国内有数の AI スペシャリスト集団です。

以　上

＜本リリースに関するお問い合わせ＞
株式会社 Laboro.AI マーケティング部　広報リーダー　東條英里　　Mail：press@laboro.ai